

## 新 年 の ご 挨拶



会 長  
上ノ町 仁

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては、ご家族をはじめ職員の皆様とともに、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年の喜ばしい事としては、何と言っても5月1日から令和の年が始まったことと思います。10月22日には即位礼正殿の儀が厳かに執り行われ、陛下が「国民の幸せと世界の平和を常に願い、象徴としての務めを果たします」と決意を述べられました。また、ラグビーワールドカップでは初のベスト8進出をはたし、「ワンチーム」としての団結力の強さを感じました。一方、自然界に目を向けると、8月の佐賀県の豪雨に始まり、その後度重なる台風や大雨による東北地方の風水害が日本列島に深い傷跡を残し、自然の猛威に人間の弱さを感じ得ませんでした。被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、災害に対する医師会としての対応もさらに充実させるべきと感じました。また、記憶に新しい所で

は、沖縄のシンボルである「世界遺産の首里城」が火災により消失したことには、深い悲しみを禁じ得ませんでした。

さて、鹿児島市医師会に視点を移しますと、共同利用施設である臨床検査センターは、来年度には創立50周年を迎えます。現会館は建設後40年が経過し老朽化（耐震性・機能性・アスベスト使用）により雨漏りや建屋の破損などで検査業務に支障がでており、リスクの除去及び職員等の負担軽減並びにIT化の促進の観点から、これから先の50年間さらに精度・スピード・サービス（3S）を向上させるべく、新臨床検査センターの建設に着手し令和3年1月に運用開始予定です。

また、医師会病院は、地域医療構想調整会議において9月に厚生労働省から公立・公的医療機関で「類似かつ近接している医療機関がある」項目において再検証を求められました。この評価は平成29年度の病床機能報告に基づく分析で、当院は既に4月に医療の効率

化の観点からダウンサイジングを行ったところですが、依然としてその運営は厳しい状況です。厚生労働省は、2025年を見据えた構想区域において担うべき医療機能としての役割、2025年に持つべき医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）別の病床数の見直しが必要と提示しています。私は、鹿児島市医師会を運営するにあたり、基本理念として「会員の先生方のために、そしてその先にある患者さんや市民の健康のために」を考え、自由に「議」を言い合い、十分に「議」をつくした後は「和を以て貴しとなす」医師会づくり、を掲げました。まさしく今、医師会病院に関し先生方のニーズや、国の示す医療機関との機能分化・連携、集約化の観点や病院の財務状況を含めて代議員懇談会等で大いに「議」を交わし、「和」と「不断の努力」と「覚悟」をもって会員の先生方が納得のいく方向へ進めたいと思います。

今後確実に訪れる少子超高齢社会において、人生100年時代を迎え高齢者から若者まで全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要な課題とされています。我々は、鹿児島県医師会を要に各郡市医師会との連携をさらに強化し、皆さんが安心安全に生活できるよう地域医療を支えていきたいと思いますので、お互い「患者さん」を中心に今まで以上に力を合わせていきましょう。

今年の夏には東京で2回目のオリンピックが開催され、各選手の汗と努力の賜物、美技を眼の前で観賞できることに今から胸が躍ります。各競技において日本選手団の活躍を期

待するところです。そして「子年」は十二支のサイクルがスタートする年で「新しい運氣」の始まりといわれており、未来への大きな可能性を感じさせる年でもあります。新年を迎え気持ちを新たに、鹿児島県医師会、各郡市医師会や関係機関としっかり連携し、「新しい運氣」をもって先生方が安心して医療に取り組めるよう尽力したいと思いますので、本年もどうかよろしくお願い申し上げます。